

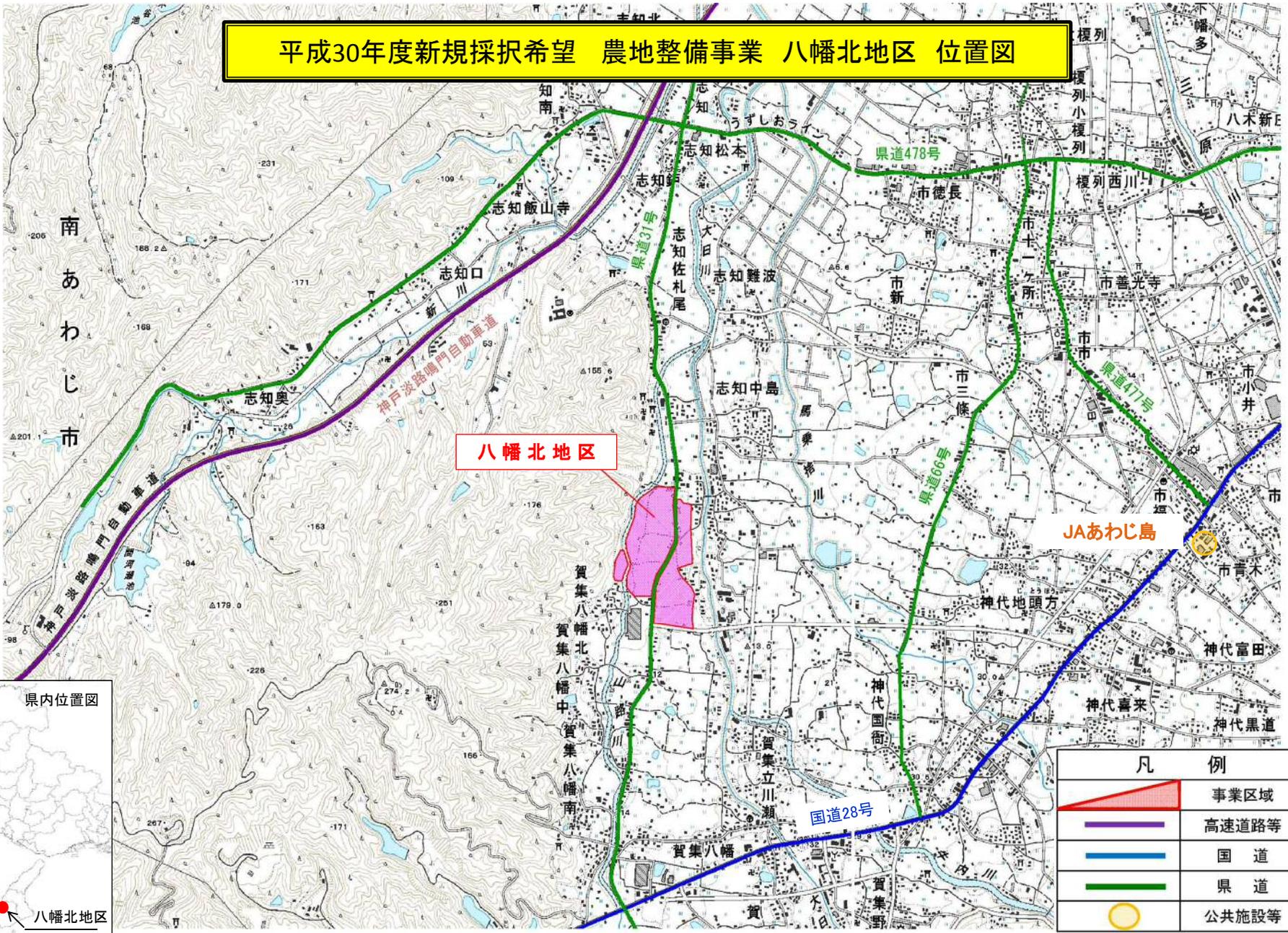
事業評価調書（新規）

部課室名	農政環境部農林水産局 農地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	農地整備課長 森脇馨 (基盤整備班主幹 高林主佳)	内線	4003 (4014)
------	---------------------	---------------------	------------------------------	----	----------------

事業種目	ほ場整備	事業名	地区名	総事業費 (内用地補償費)	5.3億円 (0.1億円)										
		農地整備事業	八幡北地区 <small>やはたきた</small>												
所在地				着工予定年度	完成予定年度										
南あわじ市賀集八幡北、志知中島				平成 30 年度	平成 34 年度										
事業目的			事業内容												
<p>本地区は、専業農家を中心に水稲、レタス、たまねぎの三毛作などが行われており、野菜の生産拡大を進めたいが、耕作条件が悪く取り組みにくい状況にある。</p> <p>このため、ほ場整備により農作業の省力化を図り、更なる野菜の生産拡大を行うとともに、認定農業者の育成を進め、効率的かつ安定的な農業経営を確保する。</p>			<p>・区画整理 15.8ha</p> <p>・事業主体 南あわじ市</p> <p>[負担割合 国：62.5%、県：27.5%、市：10%]</p>												
評価視点	評価結果の説明														
(1) 必要性	<p>本地区は、営農意欲の高い専業農業者が多数いるが、不整形なうえに農道が狭いことから、大型機械化を進めることが困難である。また、安定した用水源がない上、地区内の水路は用排水兼用であり、用水確保や配水などの水管理に多大な労力を要している。</p> <p>このような状況の中、更なる野菜の生産拡大を行い、力強い農業経営を展開していくためには、農作業の大型機械化や水管理の省力化を可能とする基盤整備が必要である。</p>														
(2) 有効性・効率性	<p>① 費用便益費 $B/C = 1.8$</p> <p>② 労働時間の短縮による担い手の育成、作物生産の増加</p> <p>a) ほ場整備及びこれに伴う農業機械の導入による労働時間の短縮</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>・10a 当たりの労働時間</td> <td>レタス</td> <td>211hr</td> <td>→</td> <td>149hr (29%減)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>たまねぎ</td> <td>195hr</td> <td>→</td> <td>104hr (25%減)</td> </tr> </table> <p>b) 担い手の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担い手数（認定農業者[個人]） 7 経営体 → 15 経営体 (8 経営体増) ・担い手への農地集積 4.9ha → 13.5ha (集積率 85%) <p>c) 野菜の作付面積・生産量の増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レタス 4.4ha → 7.5ha (1.7 倍増)、年間生産量 79 t 増 ・たまねぎ 6.5ha → 7.0ha (1.1 倍増)、年間生産量 26 t 増 ・キャベツ 1.1ha → 2.2ha (2.0 倍増)、年間生産量 44 t 増 <p>(執行環境状況) ③ 地元集落では、ほ場整備を契機にレタスやキャベツ等の野菜増産に取り組み、所得を向上させようという機運が高まっている（地元の事業同意率 100%）。</p>					・10a 当たりの労働時間	レタス	211hr	→	149hr (29%減)		たまねぎ	195hr	→	104hr (25%減)
・10a 当たりの労働時間	レタス	211hr	→	149hr (29%減)											
	たまねぎ	195hr	→	104hr (25%減)											
(3) 環境適合性	<p>専門家による現地調査において、ほ場に生息する希少種（ドジョウ等）が確認されており、これらの生息空間を確保するため、造成する貯水池に自然石で保全エリアを創設する。</p>														
(4) 優先性	<p>ほ場整備を契機に野菜の増産等に取り組む地元の機運が高く、「ひょうご農林水産ビジョン 2025」に掲げる「野菜等園芸作物の生産拡大」を先導する優先性の高い地区である。</p>														



平成30年度新規採択希望 農地整備事業 八幡北地区 位置図



八幡北地区

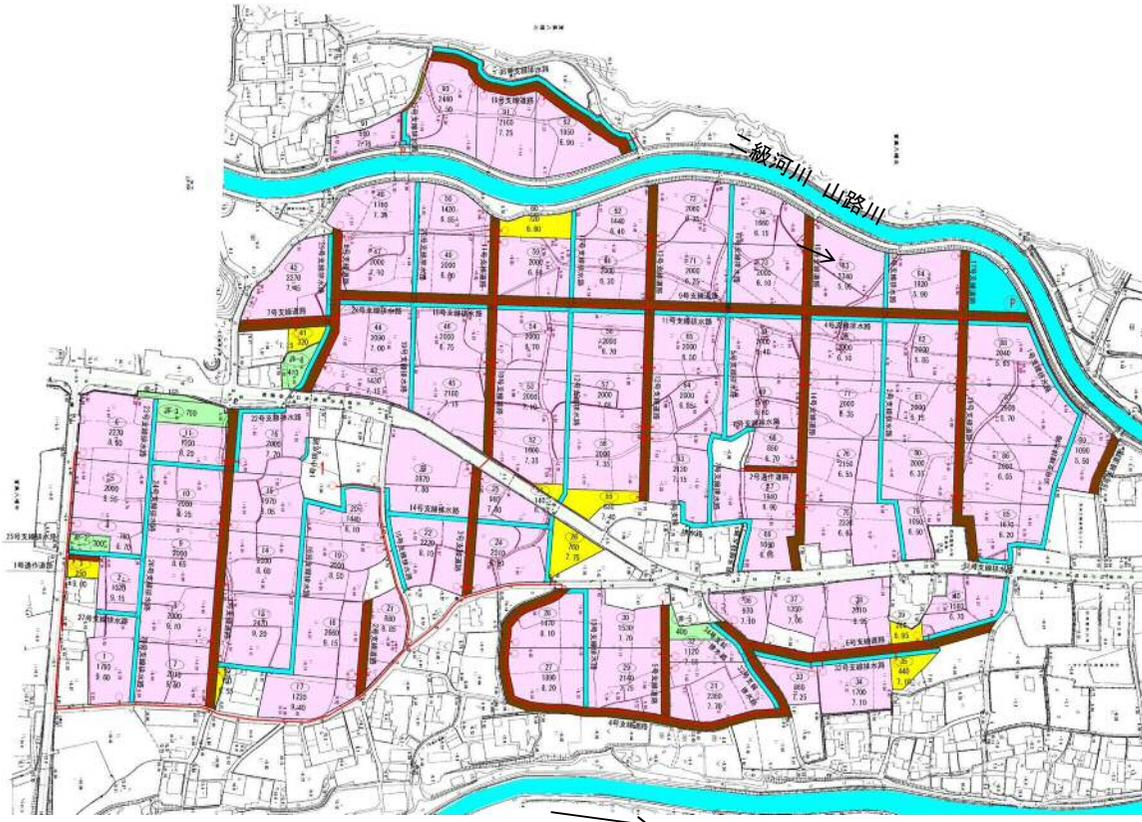
JAあわじ島



凡 例	
	事業区域
	高速道路等
	国道
	県道
	公共施設等



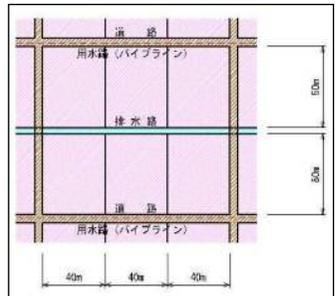
農地整備事業 やはたきた 八幡北地区



二級河川 大日川



標準区画割図
20a (40m × 50m)



事業概要: ほ場整備 15.8ha
(関係戸数40戸)
所在地: 南あわじ市賀集八幡北、志知中島
事業期間: H30~34
総事業費: 5.3億円

ほ場一3-3

事業目的等:
本地区は専業農家を中心に水稲、レタス、たまねぎの三毛作などが行なわれており、野菜の生産拡大を進めたいが、耕作条件が悪く取り組みにくい状況にある。
このため、ほ場整備により農作業の省力化を図り、更なる野菜の生産拡大を行なうとともに、認定農業者の育成を進め、効率的かつ安定的な農業経営を実現する。

	現況	計画
担い手数 個人	7経営体	15経営体
担い手への農地集積[集積率]	4.9ha [28%]	13.5 [85%]
野菜の生産拡大	レタス等 12.0ha	レタス等 16.7ha

凡例

	水田
	畑
	非農用地
	支線用水路
	支線排水路
	支線農道
	湧水機
	貯水池
	農道
	河川

1 スケジュール

工種	H30	H31	H32	H33	H34
実施設計	[Bar]				
区画整理工	[Bar]				
その他(換地)	[Bar]				

2 事業効果について

(1) 費用対効果

① 総便益(B)の項目

事業	B(総便益)	算出方法
ほ場整備	①営農経費節減効果	区画拡大や道路・水路整備による農業機械の大型化や水管理の省力化に伴い、営農に係る経費が節減される効果を算出
	②作物生産効果	ほ場整備により農業機械導入が可能になることや田畑輪換が容易になることに伴い、作付面積や収量が増加する効果を算出
	③維持管理費節減効果	ほ場整備により農業用施設の維持管理に係る経費が節減される効果を算出(新規整備の場合、施設数が増加することから、マイナス効果となる)
	④耕作放棄防止効果	ほ場整備による耕作条件の改善、労働環境の向上に伴い、耕作放棄の発生が抑制され、作物生産が維持される効果を算出
	⑤国産農産物安定供給効果	国産農産物が安定的に供給される安心感を国民が享受できる効果を算出(農林水産省実施のアンケート調査結果をもとに算定)

② 費用便益比(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(総便益)		C(総費用)			B/C	
		便益額 (百万円)	代表的な効果	総費用 (百万円)	※事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)		
ほ場整備	農地整備事業	①営農経費節減効果	941	労働時間の短縮(レタス) 211→149時間/10a	575	396	179	1.8
		②作物生産効果	88	作付面積の増加 レタス等5.9ha増				
		③維持管理費節減効果	△ 32	道路・水路延長増に伴う 維持管理費の増				
		④耕作放棄防止効果	4	将来発生が予測される耕作 放棄を防止				
		⑤国産農産物安定供給効果	47	農産物の供給量の増				
		計	1,048					

注1) 費用便益比算定:「土地改良事業における経済効果の測定方法について」(農林水産省構造改善局長通達)による

注2) ※事業費は、当該事業費+事業着手時点の既存施設資産価値-評価期間(45年)終了時点の施設資産価値

注3) 四捨五入により計が合わない場合がある

(2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ・ 県土の保全(地下水のかん養、農地・農村における災害の抑制)
- ・ 農村の活性化
- ・ 地域交通の利便性の向上